

## ソーシャルペダゴジー:1泊2日研修会応募要領

### 「スコットランドの施設養護実践モデルとソーシャル・ペダゴジー」

日 程： 2024年10月3日（木）・4日（金） ※2日間ともご参加下さい。  
【1日め】10月3日 午後1時～午後5時（午後6時から会場近くで懇親会を予定）  
【2日め】10月4日 午前9時～午後5時

会 場： 大阪公立大学 I-site なんば <https://www.omu.ac.jp/isite/>  
〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2丁目1-41 南なんば第一ビル 2階



#### 南海電鉄ご利用の場合

- 南海本線「なんば」駅 中央出口下車南へ約800m、徒歩約12分
- 南海高野線「今宮戎」駅 下車北へ約420m 徒歩約6分

#### 大阪メトロご利用の場合

- 大阪メトロ御堂筋線「なんば」駅 5号出口下車南へ1000m、徒歩約15分
- 大阪メトロ御堂筋線・四つ橋線「大国町」駅 1番出口下車東へ約450m、徒歩約7分
- 大阪メトロ堺筋線「恵美須町」駅 1-B出口下車西へ約450m、徒歩約7分

※本施設に、駐車場・駐輪場はございません。周辺のコインパーキングをご利用下さい。

対象者： 5年以上の経験のある施設職員15名  
参加費： 1万5000円（懇親会費5000円）  
主 催： 大阪公立大学教育福祉研究センター、大阪公立大学教育福祉学類  
共 催： 日本ソーシャルペダゴジー学会、小舎制養育研究会

#### 【お問い合わせ先】

大阪公立大学 現代システム科学研究科 伊藤嘉余子研究室 e-mail: itokayo@omu.ac.jp

#### 参加のお申込み

参加を希望する方は、氏名、所属、年齢、経験年数、参加動機など書いて、**9月10日（火）**までに事務局（大阪公立大学伊藤嘉余子研究室）宛てに申し込んでください。  
参加申込はこちらのQRコードからお願いします。

【お問い合わせ先】 itokayo@omu.ac.jp  
（大阪公立大学現代システム科学研究科 伊藤嘉余子研究室）



**【講師紹介】 Ian Milligan (イアン・ミリガン)**

Honorary Senior Research Fellow

University of Strathclyde

英国ストラスクライド大学 名誉上級研究員



講師のイアン・ミリガン (Ian Milligan) は、2006 年から 2011 年まで SIRCC (Scottish Institute for Residential Child Care) の副所長を務めました。SIRCC は政府出資の団体で、スコットランドのレジデンシャル・チャイルドケア部門の強化を目指し、研修を提供していました。SIRCC をはじめとする個人や団体は、ソーシャル・ペダゴジーの考え方や実践を取り入れ始め、ソーシャル・ペダゴジーのトレーニング・コースをいくつか開講しました。またミリガン博士は、ソーシャル・ペダゴジーの実践の評価にも携わった経験を数多くお持ちです。2011 年にスコットランド政府の実践改善機関として Centre for Excellence for Looked After Children in Scotland (CELCIS) が設立された際、ミリガン氏は長年にわたり国際ディレクターを務めました。

**【研修企画の背景と趣旨】**

イギリスにおけるソーシャル・ペダゴジーの導入は、2008 年にドイツからソーシャル・ペダゴジーの学識者を招聘したことによって本格的に始まりました。大規模なソーシャル・ペダゴジープロジェクトが英国政府からの資金提供によって実現し、この 10～15 年の間に、英国ではソーシャル・ペダゴジーに関する数多くの論文や本が出版されました。

NGO の Thempra (「理論と実践の出会い」) [www.thempra.org](http://www.thempra.org) は、英国で使用するための非常に詳細なソーシャル・ペダゴジーの研修プログラムを開発しました。ソーシャル・ペダゴジーの研修の特徴は、15 人程度の小グループが 2 泊 3 日の研修に 3 ヶ月連続で参加し、その 6 ヶ月後に 1 日の研修機会に、2 泊 3 日の研修を振り返るといったものです。これとまったく同じ形の研修を日本で行うのは難しいですが、スコットランドのソーシャル・ペダゴジーの研修モデルにならって、少人数のグループで 1 泊 2 日の研修を企画することにしました。対話と実践の振り返りを通して、ソーシャル・ペダゴジーの実践理論を学ぶ機会となれば幸いです。

参加定員は 15 名以内です。お申込み多数の場合は抽選とさせていただきます。また、参加者には事前レポートの提出を求めます。よろしく申し上げます。

プログラム（予定）

【1日目：10/3（木）】

- 13：00 オープニング：企画者挨拶・趣旨説明など  
13：15 チェックイン&アイスブレイク  
グループ内での自己紹介：この研修に申し込んだ動機、期待すること等  
13：35 Ian Milligan 氏によるミニ講義：  
ソーシャル・ペダゴジーとは：キーコンセプトを中心に  
14：15 グループ討議：日々の実践を振り返る（Reflective Practice）  
15：00 休憩  
15：10 Ian Milligan 氏によるミニ講義（思想家のアイデアの提示）  
15：40 グループ討議：日々の実践を振り返る（Reflective Practice）  
16：00 Ian によるフィードバック  
16：30 シェアリング & クロージング

【2日目：10/4（金）】

- 09：30 オープニング：昨日の研修の振り返り  
09：45 イアンによるミニ講義：ソーシャル・ペダゴジーにおける「3つのP」  
10：15 自分の実践をどのゾーンでおこなっているか振り返る  
10：50 休憩  
11：00 あなたの「personal」な部分が動いた体験を話し合う  
11：50 午前のまとめ  
  
12：00 休憩（60分）  
13：00 グループ討議：自分の施設や法人の理念、重視している取り組みのシェア  
13：30 自分が日々と子どもがかかわるときに大切にしている価値観（私の養育論）  
14：15 自分の実践のポリシー・価値観と「理論」の融合  
14：45 休憩  
15：00 優れた施設職員とは？  
15：50 グループ討議結果のシェアとイアンからのフィードバック  
16：15 2日間の研修の感想のシェア  
16：40 クロージング

### 主たるソーシャル・ペダゴジーのキーコンセプトの解説

ソーシャル・ペダゴジーは、ヨーロッパ諸国では長い歴史がありますが、英国でソーシャルペダゴジーへの関心が起こるのは1990年代でした。2003年に、ソーシャル・ペダゴジーの啓発やドイツなどからソーシャルペダゴグやソーシャルワーカーをリクルートする機関としてJacarandaが発足します。また、2008年にはソーシャルペダゴジーの普及機関として社会起業Thempraが発足し、英国各地での研修が本格化していきました。

ここでは、Jacarandaが2015年に刊行した啓発のためのポケットブックSocial Pedagogy An Invitationを参考にソーシャル・ペダゴジーとそのキーコンセプトについて簡単に説明します。

このポケットブックの裏表紙には以下のようにあります。「ソーシャル・ペダゴジーは実践であると同時に理論であって、創造的で、かつ価値に基づくアプローチである。それは、（専門職としての）考え方とあり方の双方であり、そうしたあり方を実現させる方法を提供する。」

学びの方法として実践（行為）の振り返り、批判的な省察と対話を重視します。少人数で研修を実施する理由がここに 있습니다。

ソーシャル・ペダゴジーの実践概念ないしキーコンセプトとして、3つのP、コモン・サード、3つのゾーンなどがあります。以下それぞれ簡単に説明します。

### 【3つのP】

3つのPとはProfessional, Personal, Private のことです。私たちすべては、3つの領域をもっています。専門職（Professional）としての私は、知識、理論、調査、エビデンス、アセスメントに基づく実践家としての私です。ソーシャルペダゴジーでは、一人の個性ある人間としての（Personal）な私を援助関係の構築の上で重視します。例えば、趣味の話子どもとすることは、子どもとの関係を専門職とクライアントの（階層的に分離された）関係ではなく、一人の人間と一人の人間との（階層的に分離されない）関係と感じさせてくれる、そのことがその後の援助関係の発展につながる、という意味があります。

しかし、パーソナルはプライベートと区別しなければなりません。「プライベートな私」とは、仕事の文脈ではほとんど語られることのない私的な側面のことをいいます。これは通常、ごく親しい人にしか話さない考えや意見です。パーソナルとプライベートの区別は重要であり、どこで線を引くかは個人によって、また情報の性質やその時の状況によって異なります。しかし、ソーシャルワークやソーシャル・ペダゴジーのような人間関係を基盤とする職業では、ワーカーは、クライアントの生活状況を改善するために、前向きで人生を肯定するような関係を築こうとするため、常に「本当の自分」をクライアントと共有しなければなりません。

### 【コモン・サード(第3の共通項)】

コモン・サードは最も実践的な概念であり、子どもと活動（例えば散歩、料理、ドライブするなど）を意図的に共有することです。それは、関係性を強化させ、互いに学ぶこと、そして新たなスキルを発展させてくれます。それは、直接的にかかわるのではなく、なんらかの活動することに焦点を当てることで、よりリラックスした雰囲気創造を創造することができます。

例えば、自信や自尊心のない子どもとの関係では、遊び心のあるインフォーマルな学習や創造的なことに一緒に取り組むことで、ワーカー（スタッフ）は子どもをよりよく知ることができ、子どもも楽しむことができます。大人と子どもは一緒に何かを楽しむことができ、子どもは通常、自分のことを気にかけてくれる大人との共有活動を楽しむことができます。

コモン・サードは、こうして自己挑戦的で長い道のりとして学びの重要性を認識し、そのために意図された活動に目を向けるものです。

### 【3つのゾーン】

これは、大人を相手にするトレーナーに役立つシンプルなモデルですが、子どもを相手にする教師やケアワーカーにも役立ちます。3つのゾーンとは、コンフォート・ゾーン、ラーニング・ゾーン、パニック・ゾーンの3つです。

コンフォート・ゾーンにいることは、簡単な学習や慣れ親しんだ学習をしていることを意味します。私たちはコンフォート・ゾーンから一歩踏み出す必要があります。学ぶためには、コンフォート・ゾーンから一歩踏み出し、馴染みのない領域に足を踏み入れる必要があるということです。それがラーニング・ゾーンです。「挑戦しつつもサポートされている」という感覚は、私たちを成長させ、発展させ、新しいアイデアや実践を探求し、学ぶように導いてくれます。

ラーニング・ゾーンの先にはパニック・ゾーンがあります。もし私たちがあまりにも強く何かを押しつけられたり、学ぶことをサポートされなかったりすると、私たちは圧倒され、不安や恐怖が私たちの学びを妨げると感じるかもしれません。

学習における、これら3つの側面については、人それぞれの経験があることを理解することが大切になります。トレーニング・コースの間、ほとんどの学習者は、新しい学習が興味深く、価値のあるものだと感じているかもしれません。しかし、ある人は、さまざまな理由から、そのトピックに対してパニックを感じたり、不満を感じたりするかもしれません。このように、3つのゾーンは、実践を振り返るツールにもなり得ます。

### 【参加者募集と事前レポートの提出について】

以上、今回のソーシャル・ペダゴジー研修が15名以内の小グループによる研修となる理由と、ソーシャル・ペダゴジーのキーコンセプトの解説でした。実践の振り返り、批判的省察こそがソーシャル・ペダゴジーを実践的な学ぶ方法です。そこで、最終的に参加者を確定させていただいた後、**参加者に事前レポートの提出**をお願いすることにしました。ソーシャル・ペダゴジーのキーコンセプトである、3つのP、コモン・サード、3つのゾーンのいずれかを選択し、実践の振り返りを文章化して（A4で3枚程度）、事前に提出することをお願いします。何か、特定のケースについて選び、偽名を使用し、ケース内容を一部加工して時系列的な振り返りをお願いしたいです。実践の振り返りと対話は職場の仲間との関係や、組織の問題にもなりますので、そうした問題にも言及した報告書は歓迎です。

以下、参加希望の受付、参加者の確定、事前レポート提出、の手順です。

#### 1. 参加希望の受付

参加を希望する方は、氏名、所属、年齢、経験年数、参加動機など書いて、**9月10日(火)**までに事務局（大阪公立大学伊藤嘉余子研究室）宛てに申し込んでください。

参加申込はこちらのQRコードからお願いします

【お問い合わせ先】 itokayo@omu.ac.jp

（大阪公立大学現代システム科学研究科 伊藤嘉余子研究室）



#### 2. 参加者の確定と事前レポート提出のお願い

**参加希望者が15名を超える場合は、抽選とさせていただきます。**

参加者が確定しだい、事前レポートの提出のお願いの連絡をさせていただきます。連絡がなかった場合には、申し訳ありませんが、抽選からもれたとご理解いただければ幸いです。

事前レポートの提出は、大会事務局宛てに、**9月17日(火)まで**にお願いします。この事前レポートは英訳してミリガン氏に事前に提供します。また、研修会当日、参加者で共有させていただきます。